

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	15-079	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol use disorders. アルコール依存		
<b>執筆者</b>		
Connor JP, Haber PS, Hall WD		
<b>掲載誌</b>		
Lancet. 2016 Mar 5;387(10022):988-98. doi: 10.1016/S0140-6736(15)00122-1.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール依存 総説		26343838
<b>要 旨</b>		
<p><b>結論：</b>            先進国においてアルコールは安価で入手容易、宣伝広告も盛んであるため、アルコール性障害の頻度も高い。若年者においては、比較的軽症のアルコール依存は多いが、重症例は慢性化し、長期的な医療・心理的介入が必要となる。医師はアルコール依存の評価や治療の機会をしばしば得るが、日常臨床においてはアルコール依存の診断や治療開始は遅れることが多い。初期医療において短期間の行動変容介入は多量飲酒者や中等量の飲酒者に有用である。短期間の行動変容介入は未診断、未治療の重症例についても治療開始を早めるのに有用である。多量飲酒者にとって禁酒、節酒の継続が望ましい最終的な成果である。治療や援助を恥とする気持ちを減少させ、禁酒、節酒にむけて実際的な取り組みを開始することが達成すべき目標である。心理療法、薬物療法のいずれか一つの治療方法を唱えるのではなく、複数の治療方法を適用することが重要である。アルコール依存の診断法の向上、精神疾患や他の薬物依存を合併している重症例の治療法の向上が、今後の課題である。</p>		

